



# 平成23年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

平成22年10月29日

上場取引所 東名

上場会社名 株式会社 木曽路

コード番号 8160 URL <http://www.kisoji.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松原 秀樹

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 福本 寛

TEL 052-872-1811

四半期報告書提出予定日 平成22年11月12日

配当支払開始予定日

平成22年11月30日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成23年3月期第2四半期の業績(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	19,904	2.4	1,153		1,105		1,893	
22年3月期第2四半期	20,392	7.0	1,122		1,085		899	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第2四半期	73.28	
22年3月期第2四半期	34.84	

### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第2四半期	37,875	28,634	75.6	1,108.08
22年3月期	38,635	30,796	79.7	1,191.77

(参考) 自己資本 23年3月期第2四半期 28,634百万円 22年3月期 30,796百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期		11.00		11.00	22.00
23年3月期		9.00			
23年3月期 (予想)				9.00	18.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

## 3. 平成23年3月期の業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	44,500	0.7	650	121.7	730	88.9	950		36.76

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他 (詳細は、[添付資料]P.5「2.その他の情報」をご覧ください。)

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(注)簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

会計基準等の改正に伴う変更 有

以外の変更 有

(注)「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年3月期2Q 25,913,889株 22年3月期 25,913,889株

期末自己株式数 23年3月期2Q 72,642株 22年3月期 72,833株

期中平均株式数(四半期累計) 23年3月期2Q 25,841,418株 22年3月期2Q 25,817,154株

四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 1.平成22年4月28日に公表いたしました業績予想は、平成22年10月21日付の「業績予想の修正に関するお知らせ」にて修正しております。
- 2.本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項について、[添付資料]P.4～5「1.当四半期の業績等に関する定性的情報(3)業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## 添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	4
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	4
2. その他の情報 .....	5
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	5
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	5
3. 四半期財務諸表 .....	6
(1) 四半期貸借対照表 .....	6
(2) 四半期損益計算書 .....	8
(第2四半期累計期間) .....	8
(第2四半期会計期間) .....	9
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	10
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	11
(5) セグメント情報 .....	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	11

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

(第2四半期会計期間)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	四半期純利益 (百万円)	1株当たり 四半期純利益 (円)
平成23年3月期	9,994	538	523	689	26.69
平成22年3月期	10,114	571	559	455	17.65
増減率(%)	1.2	-	-	-	-

(第2四半期累計期間)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	四半期純利益 (百万円)	1株当たり 四半期純利益 (円)
平成23年3月期	19,904	1,153	1,105	1,893	73.28
平成22年3月期	20,392	1,122	1,085	899	34.84
増減率(%)	2.4	-	-	-	-

当第2四半期会計期間(平成22年7月1日から平成22年9月30日まで)におけるわが国経済は、海外経済の改善や経済対策の効果を背景に景気持直しの動きがみられました。しかし、国民生活面では、雇用・所得環境の改善の足取りは重く、消費需要の回復も部分的にとどまり、消費者物価は下落基調を続けました。

外食業界におきましては、厳しい経営環境と激しい業界競争の中で店舗数が減少基調で推移し、これに伴って、売上は伸び悩みを続けました。既存店の業績につきましては、一部の業態における激しい価格競争を主因に客数が増加したものの、一方で客単価が低下したため、売上高は前年同期比微増にとどまりました。

このような経営環境の中で当社は、新規出店及び撤退はなく、3店舗の改築・改装を実施し、その結果、当第2四半期会計期間末の店舗数は179店舗であります(うち2店舗は改築のため休業中)。

営業面では、例年の季節的イベントに加えて、創業60周年記念イベントを展開し、業績の回復に努めました。その結果、既存店の売上は前年同期に近い水準を回復いたしました。また、稼働店舗数が減少したこともあって、全体の売上高は減少しました。

費用面におきましては、食材の値上げ等で売上原価率が前年同期比で上昇しました。販売費及び一般管理費は、猛暑の影響による水光熱費の増加や創業60周年記念イベントのための販売促進費のほか「資産除去債務に関する会計基準」の適用による減価償却費などの増加要因がありましたが、労働時間管理の改善に加え、募集費の減少や賞与の抑制などで人件費率が減少した結果、販売費及び一般管理費率が前年同期比で低下しました。また、特別損失として、「其他有価証券」に区分される保有有価証券の評価損312百万円と店舗の減損損失178百万円などを計上しました。

以上の結果、当第2四半期会計期間の売上高は99億94百万円(前年同期比1.2%減少)となり、営業損益は5億38百万円の損失(前年同期実績5億71百万円の損失)、経常損益は5億23百万円の損失(同5億59百万円の損失)、四半期純損益は6億89百万円の損失(同4億55百万円の損失)となりました。

また、当第2四半期累計期間(平成22年4月1日から平成22年9月30日まで)の売上高は199億4百万円(前年同期比2.4%減少)となり、営業損益は11億53百万円の損失(前年同期実績11億22百万円の損失)、経常損益は11億5百万円の損失(同10億85百万円の損失)、四半期純損益は18億93百万円の損失(同8億99百万円の損失)となりました。

なお、平成23年3月期第1四半期に係る経営成績に関する定性的情報については、平成23年3月期第1四半期決算短信(平成22年7月30日開示)をご参照ください。

(部門別の概況)

部門別売上高

	当第2四半期会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)		当第2四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	
	金額	前年同期比 増減率	金額	前年同期比 増減率
	百万円	%	百万円	%
木曽路	8,023	1.4	15,885	0.3
素材屋	1,315	13.4	2,741	13.9
じゃんじゃん亭	289	1.4	553	0.5
とりかく	266	2.4	542	5.3
その他	100	18.9	180	24.6
計	9,994	1.2	19,904	2.4

**木曽路部門**

しゃぶしゃぶ・日本料理の「木曽路」部門は、新規出店及び撤退はなく、3店舗の改築・改装により当第2四半期会計期間末店舗数は115店舗(内2店舗は改築のため休業中)であります。

営業面では、お盆や敬老の日等の季節的イベントに加えて創業60周年イベントを展開いたしました。その結果、既存店の客数が増加し、当第2四半期会計期間の売上高は80億23百万円(前年同期比1.4%増加)となりました。

**素材屋部門**

居酒屋・和食レストランの「素材屋」部門は、店舗の異動はなく、当第2四半期会計期間末店舗数は41店舗であります。

営業面では、業界競争が一段と激化する中で、季節のフェアに加えて創業60周年イベントを展開し、マグロ、和牛等の食材を用いた高価値メニューを投入しましたが、客数・客単価ともに回復できず、前年割れの状況が続きました。当部門は店舗数が前年同期末に比べ4店舗減少していることもあり、当第2四半期会計期間の売上高は13億15百万円(同13.4%減少)となりました。

**じゃんじゃん亭部門**

焼肉の「じゃんじゃん亭」部門は、店舗の異動はなく、当第2四半期会計期間末店舗数は10店舗であります。

営業面では、夏休みイベントを中心に家族客、小学生向けのメニューの充実を図りました。その結果、来店客数が前年同期比増加に転じ、当第2四半期会計期間の売上高は2億89百万円(同1.4%増加)となりました。

**とりかく部門**

鶏料理の「とりかく」部門は、店舗の異動はなく、当第2四半期会計期間末店舗数は11店舗であります。

営業面では、東京都心のビル再開発工事に伴うオフィス移転の影響もあって、宴会客の減少が続き、当第2四半期会計期間の売上高は2億66百万円(同2.4%減少)となりました。

**その他部門**

その他部門は、和食レストラン「鈴のれん」2店舗、外販(しぐれ煮、胡麻だれ類)、不動産賃貸等でありま  
す。イタリア料理店が前事業年度末に撤退したこともあり、当第2四半期会計期間の売上高は1億円(同18.9%減  
少)となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び純資産の状況

	前事業年度末	当第2四半期 会計期間末	増 減
総資産 (百万円)	38,635	37,875	760
純資産 (百万円)	30,796	28,634	2,162
自己資本比率 (%)	79.7	75.6	-
1株当たり純資産 (円)	1,191.77	1,108.08	83.69

当第2四半期会計期間末の総資産は、378億75百万円で前事業年度末に比べ7億60百万円の減少となりました。主な減少は、設備投資、賞与、配当金、法人税等の支払で預金を取り崩したことによるものであります。一方、主な増加は、資産除去債務会計基準の適用に伴う固定資産の増加によるものであります。負債は、主として、資産除去債務会計基準の適用に伴う資産除去債務の増加で、前事業年度末に比べ14億2百万円増加の92億41百万円となりました。また、純資産は286億34百万円、前事業年度末比21億62百万円の減少となりました。これは主として四半期純損失18億93百万円、剰余金の配当が2億84百万円あったことによるものであります。

以上の結果、当第2四半期会計期間末の自己資本比率は75.6%、1株当たり純資産は1,108円8銭となりました。

キャッシュ・フローの状況

(第2四半期累計期間)

	平成22年3月期 (百万円)	平成23年3月期 (百万円)	増 減 (百万円)
営業活動による キャッシュ・フロー	564	459	104
投資活動による キャッシュ・フロー	397	564	166
財務活動による キャッシュ・フロー	400	386	13
現金及び現金同等物の 四半期末残高	7,666	7,762	-

当第2四半期累計期間のキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローが、4億59百万円の流出超過（前年同期は5億64百万円の流出超過）となりました。主な要因は、税引前四半期純損失24億91百万円に対し、減価償却費8億14百万円、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額8億19百万円、投資有価証券評価損3億12百万円及び減損損失1億78百万円などの非資金項目の調整のほか、法人税等の支払いによるものであります。投資活動によるキャッシュ・フローは、店舗投資を主因に5億64百万円の流出超過（前年同期は3億97百万円の流出超過）、財務活動によるキャッシュ・フローは、リース債務の返済、配当金の支払い等により3億86百万円の流出超過（前年同期は4億円の流出超過）となりました。

この結果、当第2四半期会計期間末の現金及び現金同等物の残高は前事業年度末に比べ14億9百万円減少し、77億62百万円となりました。

(3) 業績予想に関する定性的情報

最近の経済情勢をみると、欧米の成長鈍化と円高により、輸出が減速し、景気は下振れリスクが強まっています。個人消費も、厳しい雇用・所得環境が続く中で、第3四半期以降においては、所得再分配政策や消費刺激策の効果が一巡し、景気牽引力が低下すると見られています。

外食業界においては、市場規模の伸び悩みが続き、その中で、消費者は低価格指向と高価値指向とを使い分け、また、企業間・店舗間の競争も益々激しくなると予想されます。

このような厳しい経営環境の中、当社は、「日本一質の高い外食企業」の指針のもと、「顧客起点経営」を強力に展開し、また、新規出店および低収益店舗の整理を果敢に推進することを通じて、会社の成長性と経営の効率性を高める方針です。さらに、日常業務におけるムダや不採算取引の排除に努め、収益体質を強化してまいります。

通期の業績予想につきましては、当第2四半期累計期間の実績数値が予想数値を下回ったこと及び当第3四半期

以降における出店・改築計画の進捗状況などを踏まえて、平成22年4月28日に公表した業績予想を、平成22年10月21日付「業績予想の修正に関するお知らせ」にて次の通り修正しております。

(通期の業績予想数値の修正)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益(円)
前回発表予想(A) (平成22年4月28日)	45,000	840	920	540	20.90
今回発表予想(B) (平成22年10月21日修正)	44,500	650	730	950	36.76
増減額(B-A)	500	190	190	410	-

## 2. その他の情報

### (1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### 1. 簡便な会計処理

固定資産の減価償却費の算定方法は、定率法を採用しているものについて事業年度に係る減価償却費の額を期間按分する方法としております。

#### 2. 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

### (2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

#### 1. 資産除去債務に関する会計基準の適用

当第1四半期会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、当第2四半期累計期間の営業損失及び経常損失はそれぞれ40百万円増加し、税引前四半期純損失は803百万円増加しております。また、当会計基準等の適用開始による当第1四半期会計期間の期首における資産除去債務額は14億46百万円であり、当第2四半期会計期間末の残高は14億64百万円であります。

#### 2. 表示方法の変更

##### (四半期キャッシュ・フロー計算書)

前第2四半期累計期間において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示しておりました「減損損失」及び「投資有価証券評価損益(は益)」は重要性が増したため、当第2四半期累計期間では区分掲記することとしました。なお、前第2四半期累計期間の「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含まれる「減損損失」は13百万円、「投資有価証券評価損益(は益)」は56百万円であります。

3. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位:百万円)

	当第2四半期会計期間末 (平成22年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	7,762	9,172
売掛金	681	803
商品及び製品	39	23
原材料及び貯蔵品	468	421
その他	1,982	1,018
貸倒引当金	1	1
<b>流動資産合計</b>	<b>10,934</b>	<b>11,437</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物(純額)	9,578	9,195
土地	5,637	5,637
その他(純額)	2,435	2,328
<b>有形固定資産合計</b>	<b>17,650</b>	<b>17,161</b>
無形固定資産	393	452
<b>投資その他の資産</b>		
差入保証金	6,038	6,377
その他	2,885	3,235
貸倒引当金	27	29
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>8,896</b>	<b>9,584</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>26,941</b>	<b>27,197</b>
<b>資産合計</b>	<b>37,875</b>	<b>38,635</b>



(単位:百万円)

	当第2四半期会計期間末 (平成22年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	993	1,131
1年内償還予定の新株予約権付社債	79	-
短期借入金	950	950
未払法人税等	123	194
賞与引当金	567	525
その他の引当金	91	84
その他	2,694	2,528
流動負債合計	5,499	5,414
固定負債		
新株予約権付社債	-	80
退職給付引当金	1,359	1,330
資産除去債務	1,353	-
その他	1,029	1,014
固定負債合計	3,741	2,424
負債合計	9,241	7,839
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,056	10,056
資本剰余金	9,875	9,875
利益剰余金	8,843	11,021
自己株式	110	111
株主資本合計	28,664	30,842
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	30	45
評価・換算差額等合計	30	45
純資産合計	28,634	30,796
負債純資産合計	37,875	38,635

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
売上高	20,392	19,904
売上原価	6,433	6,352
売上総利益	13,959	13,551
販売費及び一般管理費	15,082	14,705
営業損失( )	1,122	1,153
営業外収益		
受取利息	14	13
受取配当金	8	10
協賛金収入	13	17
その他	6	12
営業外収益合計	43	53
営業外費用		
支払利息	5	4
その他	1	0
営業外費用合計	6	5
経常損失( )	1,085	1,105
特別利益		
過年度事業所税修正益	-	30
固定資産売却益	4	2
貸倒引当金戻入額	-	2
特別利益合計	4	34
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	819
固定資産除却損	70	95
減損損失	13	178
固定資産臨時償却費	65	-
投資有価証券評価損	56	312
その他	37	15
特別損失合計	243	1,421
税引前四半期純損失( )	1,323	2,491
法人税、住民税及び事業税	65	63
法人税等調整額	489	660
法人税等合計	424	597
四半期純損失( )	899	1,893

(第2四半期会計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
売上高	10,114	9,994
売上原価	3,197	3,227
売上総利益	6,916	6,767
販売費及び一般管理費	7,487	7,306
営業損失( )	571	538
営業外収益		
受取利息	7	6
協賛金収入	3	7
その他	4	3
営業外収益合計	15	17
営業外費用		
支払利息	2	2
その他	1	0
営業外費用合計	3	2
経常損失( )	559	523
特別利益		
過年度事業所税修正益	-	0
固定資産売却益	3	-
貸倒引当金戻入額	1	-
特別利益合計	4	0
特別損失		
固定資産除却損	37	3
減損損失	13	178
固定資産臨時償却費	65	-
投資有価証券評価損	-	312
賃貸借契約解約損	5	-
その他	3	-
特別損失合計	125	494
税引前四半期純損失( )	680	1,017
法人税、住民税及び事業税	32	30
法人税等調整額	257	357
法人税等合計	225	327
四半期純損失( )	455	689

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純損失( )	1,323	2,491
減価償却費	795	814
減損損失	-	178
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	819
投資有価証券評価損益( は益)	-	312
売上債権の増減額( は増加)	23	122
たな卸資産の増減額( は増加)	37	63
仕入債務の増減額( は減少)	121	137
その他	176	123
小計	487	321
利息及び配当金の受取額	23	24
利息の支払額	5	5
法人税等の支払額	70	125
その他の支出	23	31
営業活動によるキャッシュ・フロー	564	459
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	601	610
差入保証金の回収による収入	275	188
その他	72	141
投資活動によるキャッシュ・フロー	397	564
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	335	284
その他	64	101
財務活動によるキャッシュ・フロー	400	386
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	1,362	1,409
現金及び現金同等物の期首残高	9,028	9,172
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,666	7,762

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

当社は、料理・飲食物の加工調理提供を主要業務とする飲食店のほか付随的に外販・不動産賃貸等を営んでおりますが、飲食店としての事業がほとんどを占めており実質的に単一セグメントのため、記載を省略しております。

(追加情報)

当第1四半期会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。